



TITLE:

彙報

AUTHOR(S):

CITATION:

彙報. 經濟論叢 1939, 48(5): 868-876

ISSUE DATE:

1939-05-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/131238>

RIGHT:

經濟學叢論 每月一日發行
第四十八卷第九號 昭和十四年五月一日發行
大正四年六月二十一日第三號郵便物認可

京都市大學經濟學會 經濟叢論

第十四卷(第五號)

昭和十四年五月

(禁轉載)

論叢

貨幣の非中立性……………文學博士 高田保馬
日本の經濟力……………經濟學博士 柴田敬

時論

支那法幣の前途と中南支貿易……………經濟學博士 木村増太郎

研究

啓蒙時代に於ける支那研究とその現代的意義……………經濟學士 島恭彦
農山漁村民の所得と租稅負擔……………經濟學士 田杉競
ウェーバーの初期の研究……………經濟學士 出口勇藏
ウィクセルに於ける貨幣論の構想とその發展……………經濟學士 服部新一

說苑

十四、五世紀に於けるイタリヤの簿記法……………經濟學士 岡本愛次
統計的集團に於ける形式的同種性……………經濟學士 有田正三
幕末上海貿易の一史料……………經濟學博士 本庄榮治郎

附錄

彙報

外國雜誌論題

彙報

經濟學部

○規程改正

昭和十四年度より本學規程中左の通改正せらる。

第一類中に日本經濟理論、東亞經濟政策原論、東亞農業論、

東亞金融論を加ふ。

第二類中の東洋經濟學史を東亞經濟思想史と改め更に日本經濟思想史を加ふ。

第四類中に支那經濟書を加ふ。

○昭和十四年度授業擔任 未定の分左の通り決定す。

東亞經濟思想史 穗積講師 東亞農業論 天野講師・大上講師

第一學年 佐波助教 白杉講師 青山講師

田杉講師

英經濟書 第二學年 柴田助教 白杉講師 田杉講師

出口講師

第三學年 中川助教 中谷助教 佐波助教

第一學年 中谷助教 出口講師

獨經濟書 第二學年 堀江助教 白杉講師

第三學年 大塚助教 青山講師

佛經濟書 第一、第二、第三學年 淺見講師

支那經濟書 憲容講師

○授業擔任中左の通り變更

石川教授擔任の經濟學史を社會政策に變更。

中川助教擔任の社會政策を社會政策特殊問題に變更。

○昭和十四年三月經濟學部學士試驗合格考氏名住所

樂

報

第四十八卷

八六九

第五號

一四一

彙

報

第四十八卷

八七〇

第五號

一四二

桌

報

第四十八卷

八七一

第五號

一四三

彙

報

第四十八卷

八七二

第五號

一四四

○昭和十四年度經濟學部入學者氏名

藥

報

第四十八卷

八七三

第五號

一四五

經濟學會

○經濟學會三月例會 三月十三日(月)午後六時より樂友會館に於いて開催。次の二つの研究報告が行はれた。

一、マックス・ウェーバーに於ける没價值性理論の成立

出口 勇 藏氏

報告要旨——ウェーバーの方法論すなはち「理想型理論」と「没價值性理論」とは統一的に理解されることが必要であり、そ

の際決定的意義を有するものは後者であることを、氏は指摘せられて後、「没價值性理論」の成立を當時の方法論的諸潮流の下に立てるウエーバーの學問的人格の決意として、ウエーバーの社會的および思想的環境と彼の個性との兩面よりの學問的成果として見ようと試みられた。彼が方法論的研究に這入る以前の方法的見解をフライブルヒの就任講演に代表させて、初期のウエーバーは經濟學の價值規準を「國民國家の權力價值」に置いてゐたことを紹介せられ、而してそれと没價值性理論とを比較することによつて、ウエーバーに於ける問題の所在と彼の悩みとその解決の方向とを跡付けつつ、彼の解決の持つ個人主義的抽象性を指摘され、而して一層具體的な解決の方向に就いて述べられるところがあつた。

一、資本主義延命論

柴田助教授

報告要旨——現代の英米の優秀なる經濟學徒の間では、資本主義の持つ矛盾の解決に關心を寄せながらナチス變革を蛇蝎視しソ聯の肅正におのゝきつゝ、漸次ケインズの解決の方向へ走る傾向が著しいことを述べられて、然らばケインズの對策によつて資本主義の殊に獨占資本主義の諸矛盾は解決されるであらうかと問題を提出された。ケインズの根本的な考へは、資本主義の矛盾が畢竟カネの不如意に起因すると云ふことであり、従つてそれへの對策は利子を引下げ國家が貨幣を注入し資本財を需要することによつて失業を除くことにあると考へられてゐる。けれども此對策はたとへ成功するにしても消極的失業對策

でしかなく、又ケインズ理論はその假定に於いて既に資本主義の重大なる諸矛盾を看過してをるのであり、此對策は實は資本主義延命論に過ぎないものであることを、助教授は指摘せられ、最後に此派の人々が蛇蝎視してをる國家主義的矛盾克伏にこそ、眞の對策への道が開かれるであらうことを暗示せられた。(詳細は本誌前號に載せられた同助教授の論文「ケインズの「一般理論」に就いて」を参照)

報告の後に各々について來會者の質疑や意見の開陳と報告者の應答とがあつて、九時半に閉會。

來會者——高田・石川・谷口・八木・大塚・中川・柴田・堀江・佐波の諸先生、田杉・出口・菊田・和田・武田・井上巖・井上次・相澤・宮本・北野・西藤・青盛・堀江英・馬場の諸氏。

○會員動靜

報

報

第四十八卷

八七六

第五號

一四八